令和　　５年　２月２８日

令和4年度　学校評価書

四万十市立東中筋小学校
学校長（　門田　典弘　）印

１．学校教育目標

「主体的に学び、心豊かでたくましく、ともに高め合う児童の育成」
～笑顔いっぱい　あいさついっぱい　元気いっぱい　ひがなか小～

２．本校の現状

【知】確かな学力の育成
昨年度の学校経営計画の到達指標として、高知県学調とCRT検査において、全学年、全教科(県・全国比)＋3以上を目指して取り組み、県学調の4年生国語、5年生算数、標準においては、3年生国語が指標に届かなかったが、概ね良好な結果といえる。ただ、個々に見ると学級の中での学力の２極化も現れ、支援の必要な児童も各学級にいる。よって、学力の定着と更なる向上に向け、加力指導だけでなく、学習意欲を高め、学習土台となる互いに認め合い高め合う学習集団の育成にも取り組みたい。また、新学習指導要領の趣旨を踏まえて資質・能力ベイスの授業、主体的・対話的・深い学びを進めるための学びの質的改善や授業スタンダードの更なる徹底に努めていくと共に、家庭との連携によって、低学年から学習習慣の定着、基礎・基本の徹底を図っていくことが必要である。急激な児童数減による複式学級の設置と併せて、今後の児童減に対応するため、児童が、主体的に活動するリーダー学習や、GIGAスクール構想と連動したICTの活用等についても研究を進めていきたい。
【徳】豊かな心の育成
本校では一昨年度まで3年間、高知県教育委員会の「道徳教育推進拠点校事業」の指定を受け、「考え議論する道徳科の授業」を要として取り組み、道徳科の授業改善を目指してきた。授業の質的向上や、児童が主体的に考えを持つと共に、多面的多角的に議論する授業の創造には各種アンケート結果などからも一定の成果があった。加えて、指定2年目からは各行事や委員会活動等、他の教育活動と関連させ、価値項目を集中的、効果的に学習するユニット化にも取り組んだ。生活目標等と絡めながら、ユニットテーマを設定して、学校教育活動全体を通した道徳教育とすることで、効果的かつ重点的に価値項目への意識化が図られ、結果として道徳性の伸長や自尊感情の向上にも結びつけることが出来た。今後も、道徳科や人権教育、日々の児童会・縦割り班の活動の充実により、自他を尊重しお互いに認め合い協力することの大切さや思いやりの心をもった児童を育成に努めたい。
・「ふるさと教育」の継承：本校のよき伝統である地域を知り、ふるさとを誇りに思う児童の育成に向けた、地域学校協働本部事業の活用や地域人材の支援による体験活動の開催
【体】健やかな体の育成
朝マラソンや外遊び等の奨励等、年間を通しての活動や体育の授業を通して、体力や運動能力の向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立に向けた生活調べや、保護者への啓発活動等を通して、より良く生活していこうとする態度を育てたい。
【横断】
・不登校の未然防止と支援：本校における課題の一つとして、不登校あるいは、登校渋り等の出現があげられる。心の健康と安心できるクラス作りを目指してQ-U等の活用、スクールカウンセラーとの連携を図る。
・学校における働き方改革の更なる進展：月４５時間、年間３６０時間の時間外勤務の上限を意識した業務改善を図る。
・保・幼・小の連携と接続の強化：スタートカリキュラムの作成(10の育てたい姿の共有)及び、スタートカリキュラム表を活用しての各教科等の相互関連を意識した授業の実施

３．本年度の評価項目

〔１〕学力向上
①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
②子どもにわかる授業づくり
③予習・復習の質と量を高める取組
④基礎・基本の徹底を図るための取組
〔２〕生徒指導
①いじめの防止等のための取組
②不登校への総合的な対応のための取組
③基本的生活習慣の確立に向けた取組
④特別支援教育の視点を基盤にした取組
〔３〕学校・家庭・地域の連携・協働
①保幼小、小中の円滑な接続の推進
②みんなであいさつ運動
③学校支援地域本部、青少年を育てる会と連携したふるさと教育の推進
④学校情報の公開
〔４〕働き方改革（業務改善）
①適切な業務管理及び組織としての対応
②ワークライフバランスを意識した業務改善
〔５〕新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善（算数科）
①数学的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業づくり
②学習リーダーを活用し、児童が主体的に取り組む授業づくり
③ＩＣＴの効果的活用

４．自己評価

評価項目 大	評価項目 中	評価指標	取組状況・成果	評定		次年度の方策
〔1〕学力向上	①学力向上のための組織的な校内研修等の取組	①主体的、対話的で深い学びを意識した授業づくりをしている85％以上 ②全学級研究授業または公開授業の実施 ③複式・算数・ICT教育等に係る外部講師招聘研修会の開催	①主体的、対話的で深い学びを意識した授業づくりができている肯定的評価100％で達成できた。 ②全学級研究授業及び公開授業は講師も招聘し100％実施できた。 ③外部講師は、複式・算数で高知大学付属小松山先生、ＩＣＴについては、夏季研修としてGIGAスクールサポーターの二神氏を招聘した。	3.9	3.8	①新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善については、今後も継続して取り組みを進めていく。 ②全学級研究授業及び公開授業は各1回以上実施する。 ③講師招聘は、計画的に、学期の早い段階で複数回実施する。
	②子どもにわかる授業づくり	①児童アンケートで「授業がよくわかる」95%以上「授業中よく発表できた」95%以上 ②ひがなか授業スタンダードの実施100%	①年度末実施の学校生活アンケート（児童）で、「授業がよくわかる」94.3％で同等、「授業中よく発表ができた」100％で達成。 ②ひがなか授業スタンダードに沿った授業をしている100％で達成。	3.5		①今後もわかる・できる授業、主体的に学習に向かい、学びが深まる授業を目指して授業改善を図る。 ②授業スタンダードに沿いながら、新学習指導要領の趣旨を踏まえた主対深の授業を追及していく。
	③予習・復習の質と量を高める取組	①保護者アンケート「ひがなかノートを毎日チェックしている」85%以上 ②学校だよりや学級通信での発信100%	①年度末実施の学校評価アンケート（保護者）で、「ノートを毎日チェック」肯定的評価69.4%(昨年度67.6%)で若干ポイントは上昇したものの達成できなかった。担任評価は、62.5%(昨年度80%)であった。 ②学校だよりや学級通信での情報発信は適宜できた。肯定的評価100%で達成。	2.9		①学校統一の連絡帳「ひがなかノート」の趣旨を今一度保護者に示し、協力を求める。 ②学校だよりや学級通信等で啓発を行い、学校・家庭の連携の中で、家庭学習の質の向上を目指していく。
	④基礎・基本の徹底を図るための取組	①週1回の加力指導の実施100% ②ドリルの反復活用、各種シートの活用、基礎基本のプリント集の活用90%以上	①週1回の加力指導の実施は、学級全体や個別指導等組織的にできた。肯定的評価100％で達成。 ②ドリルの反復活用、各種シート、基礎基本のプリント等活用している100％の肯定的評価で達成。	3.5		①次年度も週一回以上の加力指導については、個別の指導、全体での補充、全国学テ、県版学テ、漢検等の対策も併せて集中的、組織的に行う。 ②帯タイム、放課後加力、家庭学習を通して基礎・基本の定着と順次活用問題にも取り組む。
〔2〕生徒指導	①いじめの防止等のための取組	①児童アンケート「学校生活が楽しい」「東中筋小が好き」肯定的評価95%以上 ②Q-Uにおける学級生活満足群89％以上	①年度末実施の学校生活アンケート（児童）で、「学校生活が楽しい」、「東中筋小が好き」肯定的評価100％で達成。 ②満足群91.7％で達成。毎月、職員会中のハート委員会での気になる児童の情報共有と共に、ＳＣを交えた全教員参加の校内支援会の開催も、好要因の一つと考える。	3.5	3.5	①年2回の学校生活・いじめ・Q-Uアンケートと個人面談を合わせた取り組みで、児童の悩みや困り事に気づき寄り添い、解決できるようにする。 ②月1回のハート委員会や、校内支援会を継続して行い、定期的に情報共有する。
	②不登校への総合的な対応のための取組	①外部機関、SCとの連携、肯定的評価90%以上 ②ハート委員会等、毎月1回以上の全職員による情報共有	①外部機関、SC（スクールカウンセラー）との連携に関して肯定的評価100％で達成。 ②担任任せではなく、毎月定期的な情報共有と校内支援会の充実した取り組み(肯定的評価100%)が、不登校の未然防止にも繋がっている。	3.5		①・②休み明けなどに、学校に来にくい不登校傾向にある数名の児童に対して、引き続き情報共有を図りながら組織的に取り組んでいく。
	③基本的生活習慣の確立に向けた取組	①生活リズム名人60％以上 ②保健だより毎月２枚以上、メディアコントロール強調週間の実施	①生活リズム名人達成率、年度末検証は67％で達成。 ②保健だより毎月2枚以上は達成、美化保健委員会によるメディアコントロール強調週間の設定も行えた。	3.4		①名人達成率は次第に向上しており、今後も家庭との連携のもと生活課題克服に向け取り組みを進める。 ②メディア使用に課題がある児童には、家庭の協力を重ねて行うと共に、外部講師の講話等を、保護者も交え引き続き定期的に開催する。
	④特別支援教育の視点を基盤にした取組	①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり90％以上（公開授業及び研究授業） ②年2回のQUの実施と検証、生活アンケートへの対応、SCによる児童面談実施	①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりは、100％で達成。 ②年2回のQU検査の実施と検証は全教職で共有することができた。2回目において満足群の割合が上がっており、学級づくり、仲間づくりの成果が見られた。SCによる児童面談も実施できた。	3.4		①次年度も、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、学級経営、環境整備に努めていく。 ②年2回のQ-U検査を活用・分析し、児童の内面や悩みに気づくとともに、学級づくりに生かしていく。

〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働	①保幼小、小中の円滑な接続の推進	①カリキュラム表を活用した授業の実施90%以上 ②育てたい力の確認、小学校各種行事への園児の参加 ③小中連携、９年間を見通した学習・生活習慣づくり	①スタートカリキュラム表は昨年度見直しを行い、保育所から小学校へのスムーズな移行につなげた。活用率100% ②保幼小で、育てたい10の力について、共通確認をした。コロナ禍の中、田植えや運動会への園児の参加があった。里帰り発表会などは今年度も感染症の拡大により中止となった。 ③年度当初の西中での中Ｉ授業参観はコロナ感染拡大により実施できなかったが、その他の連携は計画通り進められた。	3.3	3	①スタートカリキュラムは、保小の接続がよりスムーズになるために必要に応じて見直しを行う。 ②保幼小で育てたい10の力は、年度当初に確認を行い、連携を深めていく。 ③小中の連携は、引き続き中村西中校区で展開する。
	②みんなであいさつ運動	①月１回の「あいさつ運動」「あいさつ朝会」の実施 ②あいさつ運動を年間の中心活動として捉え、あいさつの良かった児童やあいさつ名人の表彰	①月1週間のあいさつ運動は、ワンストップ挨拶など、工夫して実施できた。あいさつ朝会とありがとう朝会(2学期は、コロナの為ビデオメッセージで実施)については各学期にそれぞれ1回ずつとした。 ②あいさつ運動や、あいさつ名人の表彰等、仲間づくり部会を中心に啓発や実施ができた。※学校や地域で挨拶ができた(児童アンケート肯定的評価100%)	3.4		①あいさつ運動、あいさつ朝会について今後も継続して行い、東中筋小の伝統として継承していく。 ②あいさつ運動を教育活動、児童会活動の年間の重点の一つとして位置づけ、相手意識を大切にした豊かな心を育んでいく。
	③地域学校協働本部事業、青少年を育てる会と連携したふるさと教育の推進	①東中筋地区青少年を育てる会を年３回程度開き、地域との連携を図る。 ②「地域との関りを意識した授業や地域人材支援による活動」の実施100% ③「学校や地域でやっているいろいろな体験活動が好き」肯定的評価80%以上	①東中筋地区青少年を育てる会は、１学期に総会、３学期に総括を行った。関連した行事として、芸術鑑賞会として、地域の方にも呼びかけて、中村交響楽団による音楽コンサートを実施した。 ②「地域人材による支援」は、肯定的評価100%で達成。※地域の学校評価アンケートでは、「学校は保護者・地域との連携ができている」肯定的評価87.5%であった。 ③児童アンケートの「体験活動が好き」肯定的評価100%で達成。	3.5		①東中筋地区青少年を育てる会は、令和5年度からのコミュニティースクールへの円滑な移行を図るために、組織の見直し等を図っていく。 ②・③地域の人材活用、ふるさと教育、地域学習は今後も生活科、社会科、総合的な学習の中で取り組んでいく。
	④学校情報の公開	①月１回、学校だよりを地域に回覧し、学校の様子を発信する ②月に１回以上学校ホームページの更新をする	①月２回程度の学校だよりの発行と、毎月の地域への回覧により学校の様子等を発信した。 ②年度の途中からではあったが、新設として特色ある学校の紹介ページを設け、更新は適宜行った。	3.5		①・②学校全体に係る情報の発信は、学校だより(「ひがなかの子」)、学校ホームページ等で随時アップしていく。
〔4〕働き方改革（業務改善）	①適切な業務管理及び組織としての対応	①定時退校日、最終退校時刻の順守95%以上 ②職員会・校内研の勤務時間内の終了90%以上 ③行事振り返りシート活用における肯定的評価90%以上	①定時退校日は順守できていたが、最終退校時刻を含めると、62.5%と低調に終わった。 ②職員会・校内研の勤務時間内終了は、数値には表せてないがほぼ達成できた。 ③今年度、新設の評価項目であったが「振り返りシート活用」の肯定的評価100%で、目標を達成。	2.8	2.6	①・②業務改善については、意識付けも進み勤怠管理も行っているが、まだ実効的なものとはなっていない。業務の精選、効率化、意識化をさらに進めていく必要がある。 ③全員の回答が得られるよう参画意識を高めていく。
	②ワークライフバランスを意識した業務改善	①時間外勤務時間月45時間、年360時間以内を遵守できた教員90%以上 ②学校における働き方改革研修の実施100%	①何れも守れた教員90%以上は、達成できていない。 ②校内研における働き方改革に関する研修を実施した。長期休業中に、閉庁期間やそれに準ずる期間が設定されたことにより、有給休暇の取得率は向上した。繰り越しできる日数を除いた有給休暇取得率は、63.3%(２月末)となった。	2.4		①今後も、繰り返し業務改善に関する研修や意識付けを行っていく。併せて、校務分掌の役割分担の明確化、学校行事等の精選など、学校教育活動全体のスリム化を図っていく。

〔５〕新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善（算数科）	①数学的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業づくり	①児童アンケート「これまでに学習した内容や方法を使って考えることができた」肯定的評価90%以上 ②同上「自分の考えを発表したり、考えた理由を書いたりすることができた」肯定的評価90%以上	①児童アンケートで、「これまでに学習した内容や方法を使って考えることができた。」肯定的評価100%で達成。 ②児童アンケートで「自分の考えとその理由を書いたり、発表することができた。」肯定的評価97.1%(昨年度100%)で達成。	3.5	3	①めあての焦点化、算数科においては数学的な見方・考え方を働かせた授業構成、自分や友達の考えを伝えたり聞いたりして、考えを深めさせるような授業づくり目指して継続して取り組んでいく。 ②授業スタンダードの練り合い、「とも学び」の視点を大切にしていく。
	②学習リーダーを活用し、児童が主体的に取り組む授業づくり	①学習リーダーを活用した学習（算数科）80%以上 ②児童アンケート、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広めたりすることができた。90%以上	①学習リーダーを活用した学習（算数科）は87.5%(7月調査100%)の実施で目標達成。 ②児童アンケートで「友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」肯定的評価91.4%(7月調査94.9%)で達成。	3.3		①今年度の学習リーダーを活用した効果的な実践例を参考にしながら、児童が主体的に活動できる授業スタイルを取り入れる。 ②単式・複式に限らず、次年度も引き続き、外部講師招聘による複式授業研修を行い、算数科に限らず「とも学び」を焦点化した授業づくりに努める。
	③ＩＣＴの効果的活用	①タブレット端末やデジタル教科書などＩＣＴを活用した授業の実施率30%以上（算数科） ②児童アンケート「タブレットやコンピュータの授業では、進んで勉強しようと思う」肯定的評価90%以上	①タブレットや書画カメラ等ＩＣＴを活用した授業の実施率62.5%で目標を達成、高学年ほど活用率は高い。 クロムブックの積極的な活用を目指して、先駆的に取り組む近隣校の授業参観や外部講師による研修も実施できた。 ②「タブレットの授業では、進んで勉強しようと思う」は、肯定的評価97.1%(7月調査94.9%)で目標を達成。 ※教員アンケート「ＩＣＴ活用による主対深の学びに繋がる授業」肯定的評価75.0%	2.9		①・②ＩＣＴを授業の中で効果的に活用することができるよう、引き続き校内研前の活用研修の実施や各学年の効果があった取り組みの実践交流、先進校の取り組みに学ぶなどのスキルアップを図る。 ＩＣＴ活用場面(どの教科のどの場面で使用)の共有と、蓄積を図るための取り組み表を1年かけて作成する。 他校とのオンライン授業にも、チャレンジする。

４段階評価（４ 目標を十分に達成、 ３ ほぼ目標を達成、 ２ やや不十分、 １ 改善を要する）

５．学校関係者評価

◎子供達も先生方も、良くがんばっていると思います。これからも、宜しくお願いします。

◎今日では、小学校生が地域では少なくて、接する機会があまり無くなり寂しく思います。また、コロナ禍でもあり、行事等も少なくなり、交流の場も無くなり残念です。しかし、児童達のアンケートの回答を拝見すると、学校での生活が楽しく元気にできている様子がうかがえ、先生はじめ職員の方々の努力のおかげであると思います。

◎東中筋小学校の子供達は、あいさつもちゃんと出来、目上の者に、敬語も使え感心します。加力支援でかかわってはいますが、アンケート全部は答える事が出来ませんでした。
「教育活動」は、かかわりが少ないので、わかりません。個々の個性を生かし、大きく、育ってもらいたいものです。